

■大阪国語教育アセンブリー2013 参加者の感想より（抜粋）

※同主旨をまとめたり、文言を編集した部分があります。

■全体会について

●主題について

▼これまでの研修会とは少し違った観点と形式で、新鮮さがあり、面白く拝聴しました。非常に本質的な問題に向きあう機会で、これほど大きなものはめったにないと思いますので、今回のものを引き継ぐような機会があればと思いました。今日の議論がさらに深まること期待したいです。

▼「なんのため」「何を教えるか」は永遠のテーマです。今日はそのヒントを見つけるために参加しました。結論はずっと出ないのかもしれないけれども、考え続けるのが、教師の役目なのかも、と覚悟を決めました。昨日は別の場で、「あさのあつこ」さんの話を聞く機会があり、「本気のことば」「本気のものがたり」という言葉を得ました。本気で語られたことばを本気で読めるように「本気で伝える」ということをする必要があるのだなと思いました。そういう「本気」で伝える作業を皆さんがされようとしているという点で、元気が出た気がします。浪人生 or 学生も教師と同様に参加できるという試みはとても貴重だと思います。

▼問題提起としては、非常に意義深いものであったかと思います。こういったアセンブリーが続き、国語教育が発展してほしいと思います。

▼「何のために学ばなくてはならないのか」という疑問は、なぜ多く国語という教科に限ってなされるのか。他の教科と異なる点は何なのか。国語教育のあり方、見直しがなされるべきなのかもしれないと思いました。

▼「何のための」という根本的な問いを持ってそれを考えながら取り組むことの大切さを改めて感じました。

▼「なんのために」という問いを常に考えることが本当に重要だと感じました。この問いには決まった答えがあるというわけではなく、教師1人1人が常に問い続け、その時々での「答え」を持ち続けることが重要であると思います。

▼「何のため」目的意識を改めて考え直す機会になりました。

▼転勤し、私も今まさに国語教育の目的を考えているところです。共感する“問い”にたくさん出会えました。

▼「何のための国語教育か？」という問は、いつも感じていたことでした。その中でも少し工夫をしてみるものの大切さを感じました。教育とは、これでオーケーという言葉、ないのではないのでしょうか。日々努力したいです。

▼なんのための国語教育について考えるよい機会に出会えました。教師自身が価値をつかみ直しておく必要があるというお話に共感し、忘れたくない志だと思いました。

▼国語とはどういう力なのか、考えるとはどういうことなのかということを私自身もっと考えていきたいと感じました。

▼目的をはっきりさせることを常に意識することが大切だと実感しました。

▼何のために教えるのかという本質的な議論が大変参考になりました。

▼現在の自分が感じる疑問を、他の先生方と共有できたことが大変勉強になりました。家に持ち帰りもう一度しっかり考えていきたいと思いました。

▼問題提起をはじめ、多くの先生方が自分と同じ悩みをお持ちであることがわかるとともに、改めて、国語とは何か、なぜ学ぶのがについて考えるきっかけとなりました。

▼「なんのために」という言葉がとても印象的でした。ただ、授業をするのではなく、「なぜ」ということを意識しなくてはならないと思いました。

▼国語の授業で何を教えたらいいいのか、本当に日々悩んでいます。「ことば」の力が弱く、学習意欲の低い生徒たちに、少しでも興味を持ってもらい、考えたり、知りたいという意欲を生み出したいと思っています。改めて授業のあり方について、考えるきっかけになりました。

▼改めて国語教育とは何かを考えさせられました。私も日々生徒から“何で学ぶのか”とよく質問されます。今日まで何となく流しているところもあっていま一度考えていかないといけない課題かなと感じました。

▼「何のための」ということで、多様な視点から、参考となる意見が聞けてよかったですが、逆に混乱した部分も。ただ「活動あって学びなし」という事態に陥らないためにも、このような目的意識をしっかり持ってやっていきたいです。

▼それぞれの授業で、それぞれの人が抱えている「国語教育の目的」という課題が知れたのはとても興味深かったです。古典教育の目的、私も今、模索中です。私は、今の勤務先の高校の生徒の特色をふまえて「自分になじみのない、得体の知れないもの」を読解でき

る力をつけること、と、今は考えています。

▼教員に限らず、様々な立場の方が参加されているということに驚きました。それ程、国語教育（ことば）に興味を持たれている方が多いということなのでしょう。よい刺激になりました。古典を学ぶ意義、私も気になり考えていかなければならぬと思います。

▼「国語の力」とは何か、なんのために古典を学ぶのか、そもそもなんのための国語教育か、どれも教師としての経験が長いとはいえ、私自身答が見つかっていないのです。

▼「なんのために国語を学ぶのか」。特に古典は難しいけれど、単純に「面白いから」ではダメなのかなどと考えました。

▼古典の目的という課題は、私もかつてぶち当たった問題です。私の考えでは、日本人とは何かを考えることではないかと思っています。

▼非常に興味深いお話、問題提起だったと思います。問題提起の「何のためにこの教材をやるのか」については私の常に疑問に感じ、答えを求めていることでした。「古典教育の目的」は、私は「人の心を知る」ためだとよく話をします。時代が変わっても、同じように読める部分があればいいなと思います。

●登壇者の発言などについて

▼問題提起の中で、しようと思えば漫然と授業はできる。しかしそれでは、意味がないし、授業も死んでしまうというような話があったかと、思うのですが、まさにその通りだと思います。40～50代の先生2人で若い教員2人でバランスがよかったです。

▼興味深く拝聴しました。「羅生門」と新聞記事、神様と神様2011を組み合わせる方法は参考になりました。

▼現在定時制高校に勤めており、登壇者がおっしゃっていたように、今、生徒に何を教えられるのかを迷っています。もう少しゆっくりお話が聞けたらよかったと思いました。

▼登壇者のお話の中に、古典は勉強していないと教えられないことがたくさんあるとありましたが、私もそう思いました。生徒は思ってもいなかったことを聞いてくるので、もっと奥深くまで勉強しなければいけないと思いました。

▼問題提起の、社会の動態に左右されないような国語教育の可能性のお話、「羅生門」を現代の若者の直情性と結びつけたり、「神様」の多様な解釈を示されたお話、古典の授業における試行錯誤の軌跡のお話、語彙の使用に関するお話等、どれも大変刺激的で勉強になり

ました。

▼ベテランの先生方でも日々教材と格闘しながら学んでらっしゃるのだというところに感銘を受けました。私もまだまだなので頑張ります。

▼進学校に勤務されている先生でも、自信がなかったり、劣等感を持っていて、特別何か研究されているものもないということを知り、心が軽くなりました（失礼ですがお許しください）。毎日、自信のない自分に押しつぶされそうになる気持ちと戦いながら授業をしておりましたので、迷いがなく、まっすぐに、すべての知識を持っていなければならない現場ですが、「完璧な先生はいない」ということで、自分も日々精進していけばいいのだ、と気持ちの面で軌道修正させていただきました（重ねて失礼な言葉すみません）。

▼国語教育というものについて、皆様にいろいろと考えながら日々授業されているのだなと改めて思いました。コミュニケーション力を学力に結びつけるという問題提起のお話が印象的でした。

▼様々な高校を経験してきてこられた先生の話はとても参考になりました。生徒の目線に立った、社会からの還元方法、具体的には、社会事象との結び付けを使った授業作りができるかと思いました。

▼様々な経験を積まれた方々のこれまでの経験や現在お考えになっていることなどを聞けて、今の自身と重ね、距離を測ることもできました。

▼非常に共感する部分（悩める国語教師として）が多く、先生方と、ベクトルの的に同方向であると思いながら伺っておりました。日本人が、相手の指摘に対し、同じ定義上で語り合っているのかどうか、瞬時に質問しながら理解し、その上で自分の意見を表現するという練習を行うべきだと思いました。

▼（生徒参加者）教職についておられる先生方が「生徒の声」を十分に気にかけてくれていることが実感として得られたのが、1番印象に残りました。しかし、それが活かされているかというところにおいてはまだ疑問が残る部分があります。最後の話し合い、もっと時間があれば…！

●フロアの見解について

▼浪人生の語る「国語力」が印象に残る。具体的に「国語力」とは何かを考える機会を設けることを以降の課題としたい。

▼フロアからの、「予備校で、君は国語力がない」といわれた、という発言が印象に残りま

した。本校でも、よく生徒から「国語力がない」という声を聞きますが、「国語力」とは非常に都合よく使われているのだと自覚しました。その後彼が、「僕は国語の点数が取れるのに、なぜ論理力がないといわれるのか」と言っていました。我々にとっても考えさせられる一言でした。彼は「国語力があるという自覚を学校教育では持てなかった」と訴えているように感じました。

▼浪人生の発言が気になりました。提示された話の内容だけでは、よくわかりませんでした。切実な雰囲気でしたので、もう少しで時間を取って話し合えたらよかったと思いました。

▼せっかくの浪人生の質問答えられなかったことこそが、国語教育の問題だと思います。私も、どうすれば論理的に思考力が高まるのか日々悩んでいます。

▼興味深く聞かせていただきました。現役の浪人生のご発言が特に胸に刺さりました。さら論議が発展するとよかったなと思います（ちょっとこわくもありますが）。

●その他

▼個々には興味深い問題提起もありましたが、1時間という時間の制約もあり、討議があまり深まらなかったのが残念です。もう少し時間をかけて、ポイントを絞ってみた方が、さら実りのある全体会になったように思います。

▼4人のパネラーが、それぞれの目的、テーマをお持ちであり、時間的制約が惜しく感じました。

▼初めのシンポジウム、もう少し長い時間が欲しいです。フロアーの先生方のご意見等も、もっと伺いたかったです。（類似主旨多数）

▼（表現は悪いですがもよい意味で）飲み屋などにおいて、国語について語るというような楽しい感覚で提案を聞かせてもらいました。浪人生は面白い疑問でした。

■運営や今後の企画内容などについて

▼様々な分科会を開催していただき、私たちの授業実践を客観的に見つめ直せるような視座を今後も与えていただけるとありがたいです。

▼土曜日にやっていただけると出やすいのでまたこんな機会があれば参加します。

▼もっと、先輩教員のテクニックや指導法を学びたいので、今後もっと多くの企画や研修を開いてもらいたいです。

- ▼今後もこのような機会があればぜひ参加したいと思います。
 - ▼またこのような会がありましたらぜひ参加したいです。他の分科会も聞いてみたかったです。
 - ▼何度かで土曜塾なども参加させていただいています。今回も企画運営ありがとうございます。今回はどの分科会も魅力的で1つしか参加できないことを残念に思っていました。そのため、報告会、その他分科会の資料の同封などとてもうれしかったです。
 - ▼参加分科会が1つしか受けられないのはとても残念でした。すべてとても興味があり、1つ絞れないので、また機会があるのならすべての分科会のお話を聞きたいです。
 - ▼第1第2分科会、他にも参加したかったので、体が1つしかないのがもったいない思いです。
 - ▼他にも参加したい分科会があったので、1回に2つずつくらい参加できると嬉しいです。運営していただいた先生方ありがとうございました。
 - ▼アセンブリーという形がとても良いと思います。今後もぜひこのような機会を設けてください。
 - ▼ありがとうございました。授業力を高めるのは難しいことですが、また参加し、多くの先生方の実践を知りたいです。
 - ▼分科会では興味深い話をたくさんしていただきましたが、時間が少し足りず、もう少し時間が長ければよかったのと思いました。またこのような機会があれば参加したいと思いました。ありがとうございました。
 - ▼私は初任者なのですが、初任者研修では教科の授業方法に関するものが少ないように思われるので、このような会は大変ありがたいです。恐縮ですが、継続的に開催していただければ幸いです。本日は本当にありがとうございました。
-
- ▼浪人生が参加することについて。本人のバイタリティはもちろんそれができる環境をつくられている本会は素晴らしいと感じました。
 - ▼電子黒板を使った授業をぜひ扱っていただきたくよろしくお願い致します。
 - ▼高校、年代を入り交えてのディスカッションなど、より交流に主眼を置いた企画・時間もあればと思いました。ありがとうございました。
-
- ▼ライトノベルを教材に使うということを考えており、第3分科会がなくなったのが残念。
 - ▼大変勉強になりました。ライトノベルというテーマについても非常に興味があります。ぜひ次回も同じようなテーマ設定があることを期待しています。普段の授業づくりで課題があったことが解決できるものだと分かったことが大きな収穫でした。
 - ▼作家の先生が欠席されたのが残念でした。ライトノベルの扱いについては賛否が分かれる点もあるように思うので興味深い。またの機会にお願いします。本日はありがとうございました。
 - ▼改めて、蝉川氏を！！次回是非！！ 今回のテーマと関わるかもしれませんが、今、「集団で学ぶこと」「一斉指導（講義式）授業の可能性と限界」ということを考えています。
 - ▼第3分科会の仕切り直しをぜひ別の機会にやってください。

▼お茶などを用意していただき恐縮です。ありがとうございました。他の分科会へも参加したかったです。

▼お茶ありがとうございます

▼本日はお手伝いできず、ごめんなさい！

▼本当に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

▼良い会を開催していただきどうもありがとうございました。

▼短い時間でしたがとてもためになりました。

▼本日はご案内いただき参加させていただき誠にありがとうございました。

▼企画、運営お疲れ様でした。ありがとうございました。

▼お疲れさまでした。段取りの良い進め方に腐心される様子がうかがえて懐かしうございました。

■分科会1（評論）

▼もっと聞きたいと思わせる内容でした。1時間ではもったいない。すぐに使える内容と、本校の実情に即して考えなければならない内容とはあると思いますが、自分の授業を作る上で大変示唆に富んだお話でした。ありがとうございます。

▼初任研で昨年吉澤先生の授業を教えていただきました。以前教えていただいたことがよみがえってきて、理解がより深まったと思います。ありがとうございました。

▼グループワークを多用した授業案で、参考になる部分もありました。低学力層、特に学習障害を有する生徒への対応がどうするかは個人的な課題としたい。

▼相変わらず大変ためになりました。授業に活用します。

▼評論文の読解指導について大変勉強になりました。適度の緊張感も与えていただき「しゅん」としました。同じグループの方とも話せてよかったです。ありがとうございました。

▼評論の読む方法を教え、文章に主体的に向き合わせるやり方というのがよくわかりました。文章に応じて微調整しながら生徒と共に楽しんでやってみたいと思います。ありがとうございました。

▼生徒の主体的な取り組みを促す授業の仕掛け等大変参考となりました。

▼すごく面白くて久々に生徒になった気分で受けました。どう評論を生徒に教えていけば理解させることができるかすごく参考になりました。

▼とても参考になりました。ありがとうございました。

▼大変面白かったです。評論の学習に公式のようなものができればふわっとした国語の勉強がもっと手応えのあるものにとらえられると思いました。

▼以前から評判をうかがっており楽しみにしておりました。期待通りでした。本当にありがとうございました（残りの夏休みで研究してみます。）

▼学力を上位校でどのような方法論と目的をもって授業を展開されているのかを学ばせていただきました。「何のための国教育か」を深められればよかったと思います。

▼形式的な、現代文の読解方法がシンプルに整理されていて大変参考になりました。

■分科会2（小説）

▼同感したのは、生徒は嘘の話には興味はないということです。私の勤務校でも「本当の話？」と聞いてきますが、嘘というに興味がなくなってしまう。だから「小説の中では本当の話」と答えようと思いました。また、単語の意味を理解するために「対義語」を使うというのも使わせていただこうと思いました。

▼小説の授業の組み立て方に関して、頭を悩ませていました。私にとっては大変救われるような内容の講義でした。やはり先ずは自分の中で、「小説の授業を通して、何を生徒に伝えたいのか、どういう力をつけてもらいたいのか」ということを明確にする必要があるのだと、改めて気付かされました。

▼小説というジャンルについて、またはその教え方について、考えることのできる貴重な機会となりました。日頃考えている困難さや疑問を同じように考えている先生方がおられることに勇気づけられました。

▼「～の力をつける」という目的意義をお聞きして、全体会で考えた疑問点の答えを自分なりに考えました。

▼時間が短かったので残念です。もっとゆっくり討論したいと思いました。

▼何となく授業しない、発問の指標づくりをされている取り組みは大変勉強になりました。

▼小説というと、わざわざ授業しなくてよいという生徒の声がよくあります。導入の観点から分かりやすく教えていただいたと思いました。

▼ありがとうございました。時間60分では足りません。もっとお話を聞きたかったです。

▼ライトノベルは残念でしたが、対極（？）の文学小説についての授業法を聞いて良かった

たです。

▼小説を読む、まだ読めるようになることの意味を考えさせられました。小説に含まれる真実性やその多面性をどのように伝え、また読み解いていくかということは、自分自身の課題にしたいと思いました。

▼時間が短く、少し残念でした。1.5 時間ほど（できれば2 時間）あれば質疑応答まで余裕を持ててできるのではないのでしょうか？

▼小説の読み方について、新たな視点と基準が生まれました。冒頭部分の大切さや、対義語で読み解くなど、具体的なことを教えていただいたのでとても参考になりました。

▼非常に実践的でわかりやすかったです。

▼小説を読む「指標」の表がわかりやすかったのでこれからの授業で生かしたい。

▼とても参考になりました。自分の力がまだまだなので、質問することもできず、話を聞くだけで終わってしまいましたが、次回は、何か自分から投げかけられるように力をつけたいと思います。ありがとうございました。

▼なんのために小説を読むのか、もっと時間を取って考えたいとなりました。読みと発問のための「指標」は大変参考になりました。漠然としたイメージが明確な形を持って目の前に表れた気がします。作家論、作品論についてもぜひお話をうかがってみたいと思いました。

■分科会4（古典）

▼文学から、その時代背景なども含めたものに授業展開しないといけなと感じました。最後の「風流」という言葉でまとめられたのはとても参考になりました。

▼定番教材についての理解が深まってよかった。

▼丁寧な話しぶりと発表で、先生の作品への取り組み方や生徒への接し方が表れているようでした。私もこういう風に落ち着いた話し方を心がけたいと思います。

▼とても参考になりました。切り口が変わると、こんなに授業が深まるのかと感じました。キャラクターのマッピングはなかなか面白かったです。

▼若手の先生の研修の場として有意義であったと思います。

▼大変勉強になりました。

▼大学の先生もこられていて、自分の考えや解釈が同じであったので、間違った解釈ではなかったと1つ自信になりました。1人の解釈では読み取れない部分をたくさんの意見で知ることができました。

▼古典の世界における文化・教養である交流の一端を教え込むことの発端になりました。そして面白く、納得させることが、生徒の理解度到大変勉強になりました。

▼ちごのそら寝を、こんなふう読み解くこともできるのだなあ、と、とても参考になりました。他の様々な作品についても、このような観点で教材研究してみたいと思いました。

▼「ちご」の人物像を深く学ばせていただきました。古典に興味を持たせる努力が大切であると感じました。

■分科会5（表現とICT）

▼ICTの使い方について大きなヒントが得られました。やはり、「目的」さえ明確・強固なら、道具（ICT）は有効に使えるのだ、と安心しました。「目的」をつきとめること、そして道具の使用法や可能性を理解することが必要ですね。次の授業に活かしていきたいと思います。「道具に使われる」ことのないように…！

▼机の上に原稿用紙を置かれると嫌がられるのですが、PCの前だとすんなり書こうという気持ちが生まれるかと思いました。機会を見つけてLAN教室を利用したいと思います。またすぐに授業に生かせそうな教材もたくさん見せていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

▼掲示板について面白いと思いました。小論文では使っていませんが。意見交換のためのコミュニケーションシートを全て書いて、フィードバックするのは大変なのでうまく使ってみたいと思いました。

▼パソコンを使って作文を書くことのメリット、デメリットが明らかになった。メリットは気軽に文章を書くことができることだが、パソコンではどうしても推敲が甘くなるというデメリットがある。だが先生が「表現をして終わることが大事」とおっしゃったように「表現」を目的とをしたとき、ハードルを下げて取り組ませることも必要ではないかという思いはある。

▼作品などを実際に見ることができ、このような使い方があるのかと気付きました。

▼パソコン入力で文章を書いていくことと、手書きで書くことは似ているようで違うもの

であるような気がしてなりません。パソコン入力になれた今、こうしてこの感想を書くのも昔に比べ、辛くなっているような気がします。ICT の活用も一長一短であり、適応したところで活用していく必要があると感じました。

▼これからの時代にはI T教育も必要なのかなぁと思った。しかし国語の授業、I C Tを取り入れる必要性には疑問が残った。特別活動として行うのなら、納得。表現することアウトプットの大切さには大いに賛成。一方、肉声や紙媒体で十分だとの思いはぬぐえない。

▼作品集・…いただいておりますがしっかり見ておりませんでした。ばれてしまいました。「I C Tは道具」心に留めておきます。

▼I C Tの実際の使い方について勉強になりました。

▼素晴らしい授業が行われているのを知ることができました。けれど、この内容を今、自分の目の前にいる生徒、来年教える生徒に対してどう伝えていけばいいのか。1つ1つの課題のコンセプト、実際の授業の際の生徒の反応の例など、もっと知りたかった気がします。

▼大変勉強になり有意義な会でした。いろいろ質問もでき、他の先生方のご意見を頂くことができて参考になりました。ありがとうございました

▼媒体への依存は確かにあると思います。様々な媒体を知り、内容や目的に応じた使い方を的確に行うということは、「ことば」をたくさん持ち、自分の考えを発信し、人の考えを受け取ることの延長になるのかなと思いました。それでも「ナマ」の手書きや声の良さはありますよね。それはオーダーの品のぜいたくなのかも…と思いました。

▼I C T機器の利用のみでなく、具体的な国語表現の授業内容について、様々な知ることができました。ありがとうございました。

▼表現の授業に ICT を使う！というのは、目から鱗でした！ 特に掲示板が次々に埋まっていくのを目のあたりにしたときは、うーんとなってしまいました。もう少し大人数のとき（40人クラスの時）の利用方法もまたお聞かせいただきたいです！

▼「国語」を様々な切り口でとらえているのが伝わりました。特にブログや文章の作成など生徒の自主性を促す活動では、生徒のどこに火をつけるか次第であり、教師の腕の見せどころでもあると思うので、日々の活動に還元したいと思います。

▼ LAN 教室の使い方に驚かされました。情報の授業のない時間帯に使ってみたいと思いますが、それにはまず私自身が学情P Cにもっと慣れないことには…。しかしそれ以前に「国語表現」の時間が不要だ、という現勤務校の国語科教員大多数の意見を変えることの

方が大切かもしれないと思った次第です。

▼これから向き合うべき課題について深く考える機会となりました。「表現」ということそのものへの深い問いを感じましたし、授業の到達点として、「表現をしなければ国語の授業は終わらない」とのお言葉が、衝撃でした。「書く」と「打つ」ことの差異についても考える機会があれば、と思いました。

▼ICTの活用ということで、視覚的な教材のイメージで参加しました。思っていたこととちがっていましたが、「LAN教室で国語（もちろん他も）の授業で使っているやー！」という大発見がありました。ケータイで文章を作るのが当たり前世代の生徒たちにはPCは非常に取り組みやすいツールだと思います。やってみたいです。

▼（生徒参加者）掲示板という形で先生方の意見や疑問等を見せていただきましたが、僕はまず、この授業は、どれぐらい生徒と先生が関わりを持つのかなあ、業務連絡だけとかだと嫌だなあなんて考えましたが、先生方は「評価の仕方」を真っ先に聞いていたのに驚きました。やっぱり教職につくとそこが1番になっていくのかと。

授業の中で今後ICTを使用することが増えることには、メリットもデメリットもあると思います。メリットは言わずもがなですが、デメリットは「教師側」が常にICTを使いこなせる状況になるのが困難だということだと思います。今回、講師の先生に教えを受ける先生方を拝見して、よけいに強くそう思いました。

▼「国語」の大いなる可能性に気づかせてもらったと思います。